
愛していいの？

時雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛していいの？

【Zコード】

N67210

【作者名】

時雨

【あらすじ】

双子の姉、由実が好きになってしまったのは、幼馴染の祐輝。でも、そこには、妹、亜実との関係があり、由実の初恋を妨げる……！

切ない、初恋物語。

お誘い

「お誘い

「……でも、みんなで行こうって、遊園地。由実ちゃんも行かない?
新しい乗り物もできたみたいだし。」

私は、美香の声で我に返った。どうやら、お弁当のワインナーを箸でつかんだまま固まっていたらしく。

「新しい乗り物ってどんなの?」

つかんでいたワインナーを勢いよく飲み込んだ私は、のどにひつかけてゲホゲホとせき込む。

「おばけやしき。あ、これって乗り物じゃないね。」

「え、どんなの?」

思わず身をのりだす。結構興味があった。

「『通学路』っていうおばけやしきだつて。学校の帰りの通学路を再現されてて、そこで幽霊がいっぱい出てくつてやつ。曲がり角とかいつぱいあるしね。」

「へえー。おもしろそうだね。」

一緒に昼食を食べていた李菜も口をはさんだ。

「でも、あのおばけやしき、車どうしの接触事故で死んだ女の子の子の幽霊が出るらしいよ。しかも、学校帰りに死んだってこいつ。」

「えつ……」

「あ、もしかして、由実ちゃんおばけやしき!」ガテ?」

李菜が心配そうに聞いてくれた。

「……うん。……あ、ちょっとお手洗いに行つてくのね。」

「うん。」

私はそのまま席を立った。

教室を出て、トイレではなく、隣の更衣室へと向かつ。

私は、そこで泣いた。

思いつきり泣いた。

涙でぬれた顔をあげ、色あせた天井を見る。

そして、ふとあの日のことを思い出した。

「亜実……。」

気付けば声に出していた。

亜実……あいたいよ……。

どうしてこんなに早く空の向こうへ行ってしまったの？

亜実がいなくなつてから、すべてがなくなつてしまつたよ。

すべての色がなくなつてしまつたよ。

明るいオレンジも、やさしい黄緑も。悲しみのブルーや怒りの赤

さえなくなつてしまつたよ。

亜実……私はどうすればいいの？

ひとりぼっちなつらいよ……

悲しい過去

～悲しい過去～

『ねえ、はやくはやくうー！』

『あ、亜実、そんなに急がなくてもいいってー』

『だつて、今日は由実と亜実の誕生日だよー！おもし食べに行くし、プレゼント買つてもらえるし、遊園地にも行くんだよー！亜実、ひとつも楽しみなんだもん！』

『おいおい、亜実。誰も遊園地に行くだなんて言つてないだりうへー。お父さんが、こまつたよーにいつた。

『いいのー！絶対行くんだもん！』

『まつたく、亜実はわがままなんだから……』

お母さんは、そう言つて肩をすくめた。

お父さんもお母さんも、亜実がどんなわがままを言つてもこいつとを聞いてくれた。

それは、亜実が可愛くて、いい子だったからかもしれない。

『あーおーしかつた！ねえお父さん、次は遊園地だよ？』

『わかつたよ。まつたく、亜実にはかなわないなあ』

お父さんは、笑いながら言つた。その横で、お母さんもほほえんでいた。

幸せな時間だつた。私は、亜実の天使のよつなかわいい横顔を見て、思わずほほえんだ。

でも、悪夢は突然やつてきた。

ほとんど車の通らない道。ここは、お父さんお得意の、遊園地への近道だつた。お父さんは、なれた手つきで曲がり角を左に曲がる。その瞬間、目の前がカツと光り、私は痛みに目をおさえた。一瞬、なにも見えなくなつた。

キキイイイイイイイイ！

耳ざわりな音が聞こえ、私は意識を失ってしまった。

次に目が覚めたときには、私は病院のベットの上にいた。左目には、包帯がまかれている。

理解できなかつた。

なんで？何で私、病院にいるの？この包帯はなに？私がどうしてやつたの？亞実は？亞実はどこ？

そんなことばかり考えて、グチャグチャに混乱してしまつたところに、医者が來た。

医者の話が進むにつれ、私の心は灰色にくすんでいった。

うそ……うそでしょ……

私の左目は失明した？みんな亡くなつた？私だけ奇跡的に生き残つた？

うそだ……絶対……

『うわあああああ！』

まだ小4の私には、あまりにも残酷すぎる感じだった。目の前がどんよりとした灰色になり、次の瞬間には真っ白になつた。

私の世界から、色がなくなつた。

小4の夏、7月8日。私はひとりぼっちになつてしまつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6721o/>

愛していいの？

2010年11月8日14時21分発行